

JASS Fm調合管理強度確定フロー

JASS5 2003年版

JASS5 2009年版2015年版

FC設計基準強度

FD耐久設計基準強度

FC設計基準強度

FD耐久設計基準強度

FCとFDの値が超える強度を使用

FCとFDの値が大きい方使用

上記の強度に3Nを加えて品質基準強度Fqとする

上記の強度がそのまま品質基準強度Fqになる

温度補正 $0.3 \cdot 6N$ を加える

構造体補正值3N又は6Nを加える

Fm調合管理強度(配合)確定



構造図で水セメント比の確認
(特記が無いときは65%又は60%以下)

構造図で単位水量確認
(特記が無い時躯体で185kg以下、杭で200kg以下)

配合計画作成時、プラントに確認
(指定された事項がFm調合管理強度
『配合』でクリアできるか)

呼び強度(Fm調合管理強度(配合)
確定)再確認後納入

単位水量測定試験
方法は複数ある別紙参照と下記画像確認

単位水量確認



エアメーター法(この方法が主流理由は国土交通省が推奨してる為)



電子レンジ法



静電容量法(高周波)

第4回目資料

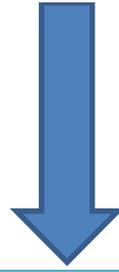
単位セメント量の確認

- 一般仕様は270kg/m³以上
- 高性能AE減水剤使用は290kg/m³以上
- 杭は330kg/m³以上
- 地中壁は360kg/m³以上
- * 注意杭は図面によって340kg/m³以上
- * 特記が無い時仕様

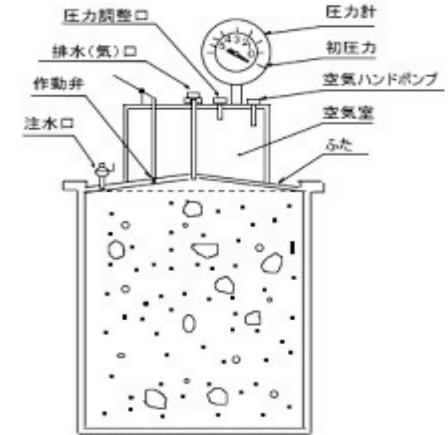
杭の時セメント量注意 !?

2. 工 法 アースドリル工法

施工業者	評定を受けた業者とし、責任施工とする。 杭の形状、施工要領は評定にもとづくものとする。
施工計画	施工に先だち施工計画書を作成し、監督職員の承認を受けること。
管理技術者	杭施工中は、基礎施工士（社団法人日本基礎建設協会）を常駐させ、管理すること。
使用材料	コンクリート $F_c = 24 / \text{mm}^2$ 、スランプ18cm セメント：高炉セメントB種（JISR5211） 単位セメント量の最小値=350kg/m ³ コンクリート強度試験は材齢7日・材齢28日に対し行う。
主 筋	SD390
HOOP	SD295A



- 空気量の確認
- 一般仕様(特記ない場合)4.5%する
- **要注意**仕様書によっては3%または2.5%指定がごくまれにあるので都度確認をする



関連記事

JASS5 2009年と2015年大まかな違い

- 構造体コンクリート強度の管理材齢から構造体コンクリート強度保証材齢用語に変更する
- 先送りモルタル原則として型枠内に打込まない事にする
- 外部試験期間(通称公的試験)を第三者試験機関に変更して